

## 不登校から就職までの自分

### E.F氏(10代女性)

私は、今年の3月に高校を卒業し、4月から介護職員として働いています。中学1年生、2年生の時から嫌がらせを受け続け限界になり、中学3年生の時、不登校になりました。自分の気持ちを伝えられず、家で暴れ、母や姉に対しての暴力や、昼夜逆転、携帯依存になりました。

7月に、両親はこのままじゃ駄目と思い、「病院に行く？」ときかれ、強制的に太田病院に連れてこられました。

診察を受け、私は帰れると思い、まさか入院するとは思いませんでした。内観を受けて、両親、姉に迷惑かけていたことがわかり、反省をしました。

内観が終わると、ワンちゃん療法に出会いました。最初は良く分からず、凄く不安で人見知りが出て、会話は出来ませんでした。でも、だんだんワンちゃん療法で、いろんな所を回っていると、話をするのが楽しくて、高齢者の方や患者様から元気をもらいました。疲れから、早寝早起きも出来るようになりました。

退院しても、携帯依存はそのままでしたが、昼夜逆転、暴力や暴れるのは落ち着きました。クラスにもどることは出来ませんでした。教育センター「ちえりあ」に行ったり、別室登校はできました。ワンちゃん療法も続けてられました。

その後、私は軽い障害を持っているので、普通高ではなく、福祉サービス科がある特別支援学校の高校に進学しました。ワンちゃん療法を通して、介護士になりたいと思っていたので、選んだというのもあります。私の学科は介護と接客の勉強が出来ます。高校に入ってから、友達と凄くぶつかりました。一年生の頃は、嫌なことがあるたびに、トイレに引きこもっていました。学校の先生に相談し、少しずつ引きこもらず、自分の気持ちを伝えられるようになりました。2年生になると、放課後等デイサービスにも出会いました。社会人になるための勉強をしたり、コミュニケーションをとるための場所でした。学校で嫌なことがあったら相談をしていました。相談をしていくと、自分の気持ちを切り替え、自分にやるべきなことに取り組めるようになりました。2、3年でここまでたどり着くことができました。ワンちゃん療法でも、凄く社会勉強になりました。ワンちゃんと触れ合った人の名前を書くとき、漢字の勉強になったり、体力が付いたり、自分から声をかけることが身に付きました。また、ワンちゃん療法で老健に出かけ、気持ちが落ち込んでいても頑張ろうと思えるようになりました。

高校から、携帯の使用は自分で時間を決め、時間がきたらやることをやり、寝るようになりました。昼夜逆転が一切なくなり、朝早く起きることが習慣になり、一日がゆとりをもってすごせています。

お母さんともコミュニケーションをとれるようになり、生活しやすくなりました。

2、3年生では特別養護老人ホームに実習に行きました。実習では、利用者さんにごはんを食べさせたり、洗濯物や茶碗の片付けをしたり、レクをしました。凄い大変だったけどヘルパー2級をとることが出来、今年の4月には、実習で行った特別養護老人ホームに就職しました。実習を通して、人と話せるようになり、慣れてくると自分から話しかけられるようになりました。そのことで、笑顔を作れるようになりました。そうすると、利用者さんも笑顔になってくれ、うれしいです。

現在は、臥床・離床介助、パット交換をまかされ、やりがいを感じています。今後は、早く担当のユニットを一人でまかされるようにがんばりたいです。